

響音 KOE

Himeji Central Hospital
地域連携だより



令和3年、あけましておめでとうございます。

昨年はコロナの年でした。皆様には大変なご迷惑とご心配をおかけし申し訳ありませんでした。

昨年12月1日に当院医師のコロナ感染が判明し、2日後にはその前の週に当院へ入院された当該科の患者様のご家族がコロナに感染されていたことが判明しました。その入院患者様は無熱でしたが検査の結果は陽性でした。

陽性者の周辺の検査を進めていたところ、4日になり同じフロアである回復期リハビリ病棟で感染者が発症し、患者さんと職員を巻き込む86名のビッグクラスターとなってしまいました。

陽性者が複数になった時点で新規入院受入れと外来診療を停止し、発端となった回復期リハビリ病棟をコロナ隔離病棟としてフルPPE（個人用防護具着用）での対応を行いました。

一時は陽性患者35名を収容し、手一杯の対応となり、看護職員を確保するためにHCU病棟を閉鎖し、他病棟やリハビリスタッフの助けを借りて運用しました。

当時、県内でコロナ陽性者を受け入れている病院でさえ10名や20名程度までの受入数でしたが、当院は35名の陽性者の対応を行っていました。

兵庫県内のコロナ病床はひっ迫した状態にあり、陽性者の転送先はなかなか見つかりません。そのため、当院に紐づけられた入院が必要な方は、すべて当院での収容をせざるを得ない状況でした。その中から兵庫県を通じて5名の重傷者の転院要請を行いました。

しかし、最初の1例以外は毎日連絡しても転院ができませんでした。

そのため、受け入れ先病院に対して個別に交渉を行い、ようやく追加2名の転院を行うことができました。これでやっと乗り切ることができたと、というのが本心です。

職員の中でも、患者様の鼻腔から検体を採取するスワブ処理班やコロナ隔離病棟の勤務者など、家族への感染リスクの高い職員はホテルに宿泊しながら勤務に当たっていただきました。

幸い、それら職員の懸命な努力で事態は収束に向かい、12月14日からはクリニックの外来診療を再開し、1月4日からは新規入院の受入れも再開することができ、コロナ隔離病棟を解除することができました。

本年はこの傷跡の修復を行っていく事がまず喫緊の課題です。

そしてもう一つは病を治すべき病院で、このような感染の惨禍を引き起こしたことを深く反省し、今後なお一層地域に奉仕していきたいと思っております。

本年も引き続きよろしくお願いたします。



感染防止対策について

姫路中央病院と姫路中央病院附属クリニックでは、感染防止対策に万全を期すために次のような対策を実施しております。

●発熱外来用コンテナ

発熱外来としてコンテナを設置し発熱している方もしくは発熱が疑われる方は通常の診療とは別に診療しています。



●各種パーテーション設置

病院本館・クリニック棟の受付や待合室にアクリル板を設置し、飛沫感染防止策を行っています。



●空気清浄機設置・定期的な換気

病院本館・クリニック棟の各要所に空気清浄機を多数設置しています。換気システムにより約10分で空気が入れ替わっています。



●タブレットによるリモート面会

院内感染防止対策のため、本館1階リモート面会スペースからのリモート面会を実施しております。



●手指消毒とサーモグラフィによる検温

病院本館・クリニック棟入口に電動式手指消毒液の設置とサーモグラフィによる検温を実施しています。



●施設内の清拭と消毒

手の触れる場所や椅子などは定期的に職員がアルコール・エタノールを用いて清拭・消毒を実施しています。



TOPIX トピックス

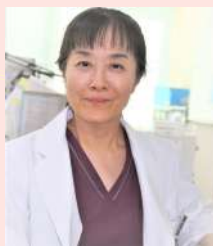
医療従事者に感謝し、お弁当を寄贈いただきました。

姫路市南今宿の焼き鳥店「炭火やきとり しゃも」様と三左衛門堀西の町の和食屋「喰い処 音松」様が医療従事者への感謝の気持ちを届けたいと2月25日～27日の3日間で合計96食のお弁当を無償で提供してくださいました。



新任医師紹介

外科 副部長 **矢野 佳子**
Yano yoshiko



着任にあたっての抱負

2020年11月より姫路中央病院外科に着任しました。胃癌・大腸癌などの悪性疾患や胆石、ヘルニア、虫垂炎などの良性疾患まで幅広く消化器疾患の治療を行っています。手術はガイドラインに沿って、体への負担を考慮し、腹腔鏡下手術や機能温存を取り入れた治療を心がけています。どうぞよろしくお願いいたします。

